

令和4年度「ごみの減量と資源化」に関する市民意見交換会、市民アンケートの結果について

1 意見交換会や市民アンケートの目的

本年7月に改定した「ごみ減量・資源化指針」に基づき、ごみ問題に対する、市民の皆様の
ご意見やご質問を伺うとともに、4月から開始した、プラスチック製容器包装の実績報告などを
行い、今後のごみ減量や資源化の施策の参考にするため、実施いたしました。

2 実施状況

(1) 意見交換会(7/28～11/11 開催)

資料NO	意見交換会	開催対象数 ※	開催数	出席者数	意見・質問数
2	市内50地区	50回	40回	738人	698件
	コミセン・市庁舎	10回	10回	63人	154件
	環境推進員ブロック別研修会	9回	9回	198人	97件
計		69回	59回	999人	949件

※ 市内50地区のうち、10地区は、コミセンで行われた意見交換会等で兼ねるとされた。

(2) ごみの減量・資源化に関する市民アンケート

資料NO	区分	調査期間	対象者	回答者	回答率	自由意見数
3	市民アンケート	8/1～8/31	2,000人 (18～80歳未満:無作為抽出)	896人	44.8%	419件
	市政モニター	8月上旬	市政モニター200人	188人	94.0%	
	市HPアンケート	8/1～8/31	一般市民	4人	—	
計				1,088人	—	

市民アンケートで寄せられた自由意見

資料NO	区分	調査期間	対象者	自由意見数
4	市民アンケート の自由意見	8/1～8/31	2,000人 (18～80歳未満:無作為抽出)	419件

← 冊子化

(3) その他のアンケート

資料NO	区分	調査期間	対象者	回答者	回答率	自由意見
5	個人事業所 アンケート	8/1～8/31	2,000事業所 (4,925事業所から無作為抽出)	836事業所	41.8%	各アンケートの 集計表に 記載
6	ごみ収集運搬 事業者アンケート	〃	12団体 (ごみ収集運搬業務委託業者)	12団体	100%	
7	意見交換会 出席者アンケート	7/28～11/11	上記(1)の参加者 (意見交換会の感想など)	965人	96.6%	

3 意見交換会、及び市民アンケートの自由意見として寄せられた主な意見（抜粋）

(1) 本市を取り巻く環境の変化 ～ ごみ減量・資源化指針の体系と作戦

- ・ごみ減量の作戦を、体系的にまとめたことは良いことである。大切なのは、市民に浸透させることであり、住民に訴えかけやすい重点的な取り組みを進めると良い。（市内50地区）
- ・この指針の最終目標は何か。目標をしっかりと掲げることが大事である。焼却量を減らすといった説明よりも、「環境を元に戻す」といったことを、前面にPRした方が良い。（市内50地区）
- ・今回、様々な取り組みなどを知ることができた。市民の意識を変えることが必要だと思うので、啓発をどんどん行って頂きたい。（コミセン）
- ・私の地区は、各務原市、岐南町と隣接しており、自治体毎に、制度が異なり、他自治体の住民のごみが持ち込まれていることから、広域的に、ごみ制度の統一を考えられないかと思う。
(コミセン)
- ・ごみの問題は、地球から市民生活まで、全ての環境保全や環境対策に直結する。SDGsの目標にも掲げられている。目標の達成に向けて、まずは、一人ひとりの理解や意識が必要である。SNSや広告、テレビ等によって情報発信することを望み、市の取り組みに期待する。
(市民アンケート)

(2) 作戦1（多様な資源ごみ回収を促進する）

- ・資源分別回収の回収量が減っている。民間の回収ステーションが増えていることによると思うが市として、どのように考えているのか。（市内50地区）
- ・資源分別回収の回収量が減っている。月に1度の回収では、働いている世帯などは、限界がある。高齢化の問題もあり、回収ステーションを増やしたり、どの時間でも持ち込みができるような場所をつくるなど、今の世代のライフスタイルにあった対応が必要である。（コミセン）
- ・単身高齢者の世帯は、資源分別回収や、エコステーションなどを利用することすら困難になっていることを、今後の課題とする必要がある。（市民アンケート）
- ・次世代を担う子どもたちにも、学校教育等でごみの分別に対する意識付けや、リサイクルに対して、関心を持てる活動があると良いと思う。（市民アンケート）
- ・毎月の広報紙等で、ごみ量を掲載し、目標や現状を見える化し、やる気に繋げていく。ごみの減量の目的は、いくつかあるが、取り組みによって、ごみ処理に要する経費は必ず減る。その経費の使い道が明確にされれば、市民もメリットを実感でき、取り組みが広がる。
(市民アンケート)

(3) 作戦2（紙ごみを減らす）

- ・雑がみは、普通ごみと一緒に出す方も多くいる。周知徹底を、根気よく進めてほしい。
(市内50地区)
- ・もっとリサイクルの啓発をすべきである。家庭ごみの中に、雑がみ（新聞紙、厚紙、段ボール紙など）が非常に多い。これらを分別できれば、焼却するごみを減らせるのではないかと。
(市内50地区)

- ・私の地区では、イベントを実施する際、雑がみの回収も行っており、分別回収の意識も高まっている。啓発活動をもっと行い、分別意識を高めれば、ごみが減っていくと思う。(市内50地区)
- ・紙ごみを減らすとあるが、そのほとんどがダイレクトメールやチラシである。そのようなものを発生から抑えるべきではないか。事業者への対応を検討したことはあるか。(研修会)

(4) 作戦3 (生ごみを減らす)

- ・ダンボールコンポストを家族で行っているが、できた堆肥の使い道がない。市として、取り組みを進めるのであれば、活用の仕方を示してもらいたい。(市内50地区)
- ・ダンボールコンポストによる生ごみ減量に継続して取り組んでいる。市の補助制度は、今後もぜひ継続してもらいたい。また、もっと多くの皆さんが実施するようになればと思う。
(コミセン)
- ・電気式生ごみ処理機の補助制度は、良い事業だと思う。加えて、新築住宅のディスプレイへの補助制度などもあれば良い。(市内50地区)
- ・生ごみは、家庭で、ほとんどが処理できることを教育現場で指導し、伝えてもらうと良い。教育現場で、ごみの話をもっとしてほしい。(市民アンケート)

(5) 作戦4 (プラスチックごみを減らす)

- ・プラスチック製容器包装の分別収集が始まり、普通ごみの収集量や、ごみの焼却量は、どれ位減ったのか。(市内50地区)
- ・家庭では、雑がみやプラスチック製容器包装の分別を、子どもに指摘されることもあり、子どもうちから、教育していくことが大切だと思う。(コミセン)
- ・プラスチック製容器包装の分別収集が始まり、私たち市民は「分別」、市は「収集」して、ともにリサイクルに取り組んでいるが、身の回りのごみを見ると、過剰包装が多く、商品の生産者側の意識が低いように思われる。(コミセン)
- ・回収されたプラスチック製容器包装が、資源化され、こんな製品になるという具体例を示してもらえると理解しやすい。(コミセン)
- ・学校などのプラスチック製品を、エコな製品に切り替えてほしい。例えば、備品のプランターは、卵の殻でできたプランターを使っている自治体もあると聞いたことがある。
(市民アンケート)

(6) 作戦5 (事業系ごみを減らす)

- ・事業者が流通する包装容器などの簡素化を進めれば、様々なごみも減ると思う。(市内50地区)
- ・事業者は、既に、色々のごみ減量に工夫をしていると思っていたが、まだまだ分別できていないといった事例もあると聞いた。もっと細かい単位で、目に見える形で、事業者に取り組んで頂けるよう、広報してほしい。(コミセン)

(7) 作戦6 (ごみ処理有料化制度の導入を検討する)

- ・プラ容器の分別が始まり、普通ごみは減っていると実感している。そこで、有料化すれば、さらに、普通ごみは減ると考えている。住民の意識改革のためにも、有料化は進めるべきだと思う。
(市内50地区)

- ・有料化を実施するとなった場合は、低所得者や生活保護の方へのサポートも行ってほしい。有料化の実施には、反対意見もあると思うが、頑張ってもらいたい。(市内50地区)
- ・ごみ処理の有料化は、市民にごみの減量と資源化の意義をしっかりと伝えながら、慎重に検討して欲しい。(市内50地区)
- ・正直、ごみの有料化は、必要になってくると思う。ただ、今の日本を取り巻く社会経済情勢で、市民の理解を得ることはできないと思う。コロナも生活も、もう少し落ち着いてきたら、意見交換会などで、有料化の必要性を十分に伝えてから、スタートするべきだと思う。

(市民アンケート)

- ・有料化の導入は、手順を踏んでやらないと、反発がかなり大きいと思う。(市内50地区)
- ・個人的に有料化は嫌だと思う。他に手を尽くした上での有料化ならば仕方がない。有料化によって、ごみが減るといのがわからない。詰め込んで、ごみを出す回数が減ることはあるだろうが、ごみが減るのか疑問だ。(市内50地区)
- ・有料化制度には反対、無料の状態、ごみ減量を大いに進めてほしい。
- ・ごみ有料化は、減量施策のやるべきことをやってから取り組んでいくのが大事だと思う。啓発活動をどんどん進めてほしい。プラスチック製品の再生も考えてほしい。

(市内50地区)

- ・有料化は、どのような方法で行うにしても、最近の物価上昇など、生活に大きな影響がある。また、おむつの排出など、子育て世帯や介護世帯といった社会的弱者に、ごみが多くなりがちである。私は、有料化をしてほしくない気持ちが強い。(コミセン)
- ・他の市町から持ち込まれるごみ(不法投棄)が多いので、有料化する前に、指定ごみ袋を採用して、他市町からの持ち込みをなくすようにしてほしい。(市内50地区)
- ・ごみ処理の有料化によって、ごみ量は、削減すると思う。考えるべきは、ごみ袋の単価だと思う。家計の負担にならず、家庭の事情も考えて、設定して欲しいと思う。(市民アンケート)

(8) 各作戦によるごみの減量見込み・指針の推進

- ・新しいリサイクルセンターが完成し、従業員が、大変な手間をかけて分別し、リサイクルを進めている。こうした事実を知らない人が大勢いる。こういうことをもっとPRしていくと良い。
- ・説明を聞いて、内容は理解できたが、多くのごみの減量の取り組みによって、市民が、どんな結果やメリットを受けられるのかといったイメージがわからないので、それを示してほしい。

(コミセン)

(9) プラスチック製容器包装の分別収集

- ・今年4月からプラスチック製容器包装の分別が始まり、ごみステーションの可燃ごみが減った分、プラスチック製容器包装の多さが目立つようになった。日々の生活の態様を改めて考えさせられた。(市民アンケート)
- ・プラスチック製容器包装が、非常に多いが、回収日を週1回から2回に増やすことはできないか。
- ・回収されたプラスチック製容器包装は、どのようにリサイクルされているのか。何に、リサイクルされるか分かることによって、市民の分別する意識が変わり、モチベーションも上がると思う。

(市内50地区)

- ・自治会非加入者や外国人世帯に、分別のルールが徹底されていないと感じる。これらの人に対する周知を強化して欲しい。(市内 50 地区)
- ・プラごみが、少しでも減れば、環境が良くなり、生態系を壊すこともなくなると思うので、「地球環境」といった大きな観点で考えると良いと思う。(市内 50 地区)
- ・プラスチック製容器包装分別の説明は、わかりやすかったが、今後も、質問や意見があった事項を、さらに追加した資料を作り、市民周知することで、さらに分別しやすくなると思う。
(市内 50 地区)
- ・分別に迷うものが多いので、ぜひ分かりやすい周知をお願いしたい。(コミセン)

(10) その他の意見・質問・感想

- ・自治会未加入者のごみの出しのルールが守られていない。自治会未加入者への分別意識の向上策は、何かあるのか。(市内 50 地区)
- ・このチラシなど「ごみ」としている表現を、例えば「有価物」などといった、別の表現にしたらどうか。(市内 50 地区)
- ・市民が、ごみから資源へ、リサイクルへ、という意識を強く持てる PR をやってほしい。
(市内 50 地区)
- ・小規模集会で絶えず、PR することが必要だと思う。市 HP 等の PR では、メディアを使用しない者は、何も知ることができない。(市内 50 地区)
- ・書面の資料だけでは、理解できない事項があるので、今回のように、直接市の担当者の方と話ができて良かった。ごみの分別に対する考え方が少し変わった。(市内 50 地区)
- ・意見交換会に参加するような人は、既に、ごみの減量に取り組んでいる。アパート、借家、高齢世帯、一人暮らしの家庭へどう伝えるかが問題である。(市内 50 地区)
- ・市のごみ処理場等の見学をすると、意識が変わると思うので実施してほしい。(市内 50 地区)